

第 16 回塩谷広域行政組合ごみ処理検討委員会報告

1. 日 時

平成 18 年 12 月 6 日 (水) 13 時 30 分 ~ 16 時 30 分

2. 場 所

塩谷広域行政組合 1 階大会議室

3. 出席者

職 名	氏 名
委員長	(学識経験者) 西谷弘子
副委員長	(さくら市) 菊池崇雄 (欠席)
委員	(矢板市) 長谷川健 (欠席) 小松高行 (欠席)
	(さくら市) 天野順子 蛭田幸子 関 忠司
	(塩谷町) 松尾享子 立岡芳司
	(高根沢町) 飯泉八重子 君島 毅 (欠席)
	(地元住民代表) 高塩克敏 (欠席) 岡田 明
	(学識経験者) 小久保行雄
	(アドバイザー) 今泉繁良 (欠席) 中村祐司
職員	(矢板市) 高瀬主査
	(さくら市) 手塚副主幹
	(塩谷町) 中島課長補佐
	(高根沢町) 金澤課長補佐
事務局	(塩谷広域行政組合) 高久事務局長 磯室長 小堀主幹 印南係長 斉藤主査 阿久津課長 館脇副主幹
	(環境工学) 松本良二 山本方晶

4. 議事次第

1) 開 会

2) 第 15 回ごみ処理検討委員会検討結果報告

3) 報告事項

環境施設 (熱回収施設) 規模の中間提言書について

立地地域に可能な望ましい地域還元施設について

一般廃棄物処理基本計画の減量化・資源化施策について

その他

4) 議 題

立地地域に可能な望ましい地域還元施設について

一般廃棄物処理基本計画の減量化・資源化施策について

その他

5) 閉 会

5 . 主な意見

1) 立地地域に可能な望ましい地域還元施設について

- ・ 欠席者からは事務局に地域還元施設に関する提案は届いていない。
- ・ まだごみの中から使えるものがある。展示してほしい人がいればあげる空間があればよい。
- ・ コンセプト、柱を作ってからおこなってはどうか。建設までに考えていったらどうか。
- ・ 塩谷広域の個性を出す必要がある。自ら作っていくものがよいのではないか。塩谷の個性を出す必要がある。5つの柱を考えてみました。
- ・ 水辺環境として、地下水は利用できない。川の水を利用してはどうか。
- ・ コンセプトは大事である。
- ・ エネルギー利用し、温室栽培などもよい。
- ・ 衣・食・住・遊をいれていくとよい。個人的には遊園地がよい。「衣」は森林資源を利用する。「食」は野菜、米、果物。要素として必要なのは「遊び」だと思う。
- ・ 搬入車が多いため、子供が行くには、整備して考慮する必要がある。
- ・ 地域の人によってくれるイメージの転換が必要である。
- ・ 環境のテーマが必要である。
- ・ 木材を利用するのは大事である。
- ・ エコ通貨、キッザニアの事例がある。
- ・ 1回きりというのはよくない。エコカードを利用すれば、点数でまた利用することが考えられる。
- ・ 他自治体において、足利工業大学と連携して、よい結果を出しているようである。
- ・ 情報発信できる施設がよい。
- ・ 情報発信は大きい意味を持っている。こういうのをやりたいからあそこに行く施設としたい。
- ・ 松島の焼却場では、カプトムシ、クワガタムシが多くとれた。
- ・ 「衣・食・住・遊」を取り入れた「還元施設の整備に対する基本的な考え方」とする。
- ・ 考え方を提言してはどうか。
- ・ 地域にポイントをあげるというのはどうか。ごみを無料にするなど。
- ・ 「地域」の線引きが難しいのではないか。

2) 一般廃棄物処理基本計画の減量化・資源化施策について

- ・ 「排出抑制方策1 . 教育・啓発活動の充実 広報誌にごみ情報を掲載する。」において、ホームページでも見ているが紙面の方がよいのではないか。
- ・ 「排出抑制方策1 . 教育・啓発活動の充実 諸団体および町内会との継続的な話し合いの機会をつくる。」において、紙面+ホームページ+説明会が必要ではないか。

- ・「排出抑制方策 1 . 教育・啓発活動の充実 その他」において、さくら市では、平成 6 年度より、生ごみ減量のため、EM 菌を使った堆肥を作っている。
- ・「排出抑制方策 3 . 一般廃棄物排出事業者に対する減量化指導の徹底 」において、聞き取りアンケートを行ってはどうか。ルール違反はペナルティーが必要ではないか。

3)その他

- ・中間提言書を 12 月 25 日に提出します。「立地地域に可能な望ましい地域還元施設について」の検討が今回で終わりましたので追記して提出します。内容については委員長に一任することとします。

以上